

# おおばっこ

E-mail 510131@sch.ibk.ed.jp

『いい顔 いい言葉 いい思い』

自らともに つながる

Tel 029-269-2103 Fax 029-269-2159



気持ちのよい秋晴れが続き、木々も色づき始める季節となっていました。11月は、学校へようこそ、授業参観、秋祭りなどたくさんの行事が予定されています。様々な体験を通して、新しい知識を吸収し、学ぶことは楽しいと感じられる活動にしたいと思っています。

先日、「いじめゼロフォーラム」を実施しました。各クラスのスローガンが発表され、「いじめゼロ」に向けての思いを強くしていました。大場小学校のスローガンは、「みんなでなくそう いじめっ子 笑顔あふれる大場小」に決まりました。一人一人のスローガンも掲示予定です。ご来校の際は、是非、ご覧ください。

## ちがいを認め合う ~見方を変えると~



子供たちの学校での様子を見ていると、「ずるい」「ずるくないよ」という言い合いを耳にすることがあります。モノを分ける、道具を使う、係活動や役割をめぐって、きまりを守ったかどうかなど。理由は様々です。子供たちは、どんなとき「ずるい」と感じるのでしょうか。

特に、モノを分け合ったり、役割を分担したりするような、分配に関する正義は、分配的正義と呼ばれています。分配的正義についての認識は、子供の成長とともに発達すると考えられています。1つしかモノがないとき、2人いればどうすればよいか。

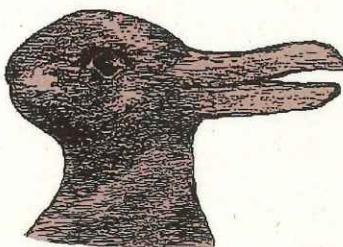
大人は、つい解決策を示しがちですが、小学校低学年は、まだまだ利己的欲求が強い時期なので、誰もが自分に多くしたいと考えます。「自分が方が早かったから」などといろいろな理由をつけて「利己的分配」を主張します。そして、自分が正しいと思っています。しかし、そのうち「絶対、同じがいい」という「均等分配」を求めるようになります。「その方が、喧嘩をしないですむから」と分かってきます。

中学年になると「がんばった人に、よりたくさんあげてもいい」という貢献度に応じた「公平分配」を望む子が出てきます。また、すごくがんばった子を、称賛できるようになります。

高学年以上になると「必要としている人に、より多くあげてもいい」と、個々に置かれている状況や立場を考えることができます。さらに、相手に多くあげる「愛他的分配」ができる子も出てきます。(もちろん、子供によって成長にはちがいがあります。)

モノやコトの分配を誰にとっても公平だと思えるようにすることは、難しいことです。解決するために話し合う機会を大切にして、子供たちの認識を豊かなものにしていくしかありません。

ところで、右の絵は、何の絵に見えますか？よく見ると2つの動物が見えてきます。「何を見つめて、何を大切に思っているのか、また、どのような経験を積んできたのか」などによっても変わってきます。



「右向きのアヒル」と「左向きのウサギ」に見えるのですが、アヒルを知らなければ、アヒルと見えるようになることはないかも知れません。経験は重要です。また、「動物は右向きに描く」などの固定観念があるとウサギには、見てこないかも知れません。様々な見方を受け入れるゆとりも重要です。

事実は1つでも、立場を変えれば（見方を変えれば）、見えてくることも、感じることも違ってきます。子供たちには、ちがいを認め合い、多様な見方や考え方を大切にすることの重要性について、伝えていきたいと思います。ご家庭でも、お子様の成長に合わせ、多様な見方や考え方を認め合うお声掛けをお願いいたします。



〈いもほり〉

上級生が下級生に教えてくれました。



〈大学との連携授業(5・6年体育)〉

自分たちの課題を見つけ作戦を練ります。



〈消防署見学(3年)〉

見て、聞いて、発見がいっぱいでした。